


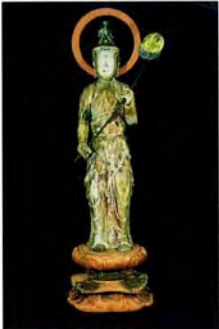






石川町資源調査調書

通し番号	60	整理番号	5	-	011	作成	平成19年2月
名称	ヤクオウジ ヤクシドウホ フツウ 薬王寺の薬師堂及び仏像				項目	史跡	
管理	住所	石川町字大室563					
	連絡先	文化振興係 TEL 0247-26-9137					
	管理者及び所有者	鎌田弘史					
概要	<p>薬師堂はかつて、藤原時代の様式を持っていたといわれるが、その後の建替えて改変され、さらに昭和61年(1968年)の修理をへて現在の姿になった。正面三間、側面三間の方形造りで比較的大型の仏堂である。須弥壇下に「元文二歳(1737年)丁巳霜月吉日、高田町、奉奇紋、瀬谷源八良、本口」と記された墨書がある。これは須弥壇の制作年代と考えられており、薬師堂もこの頃の建設と推定される。</p> <p>堂内には本尊の薬師如来坐像・月光菩薩立像・日光菩薩立像・十二神将像さらに阿弥陀如来坐像が安置されている。最近の調査により薬師如来の造立は平安時代末期頃に位置づけられるとのことである。また、月光菩薩は像内の墨書銘により延文2年(1357年)の造立が確認されている。日光菩薩は室町時代の作と見られている。阿弥陀如来は寄木造で平安末から鎌倉初期の特徴を持っているといわれる貴重な仏像である。これらの仏像は昭和62年から平成4年にかけて修復された。</p> <p>昭和51年10月27日 町指定文化財に指定</p>						
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財(石川町教育委員会) 石川町史 第6巻						
関連項目	薬王寺(3-016)						
備考							
写真及び位置図等							
 <p>薬師堂</p>				 <p>位置図</p>			
 <p>月光菩薩像</p>		 <p>日光菩薩像</p>					


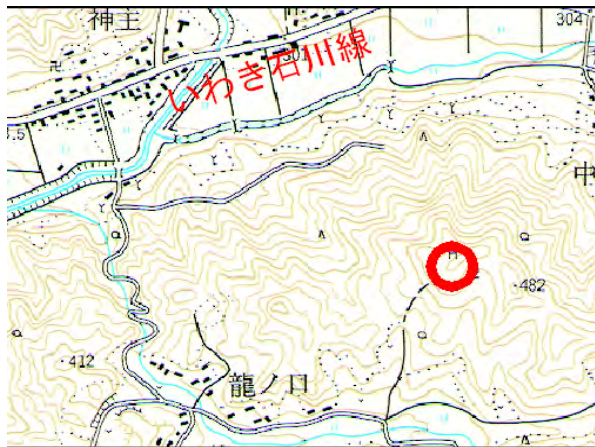
石川町資源調査調書

通し番号	61	整理番号	5 - 012	作成	平成19年2月
名称	ケソウジ ドンゾウ 華蔵寺の銅鐘		項目	史跡	
管理	住所	石川町字下泉242			
	連絡先	文化振興係 TEL 0247-26-9137			
	管理者及び所有者	竹貫知孝			
概要	<p>臨済宗妙心寺派の禅寺で正和5年(1316年)仏国国師(禅師、高峯顕日)により開山したと伝えられている。鐘は境内南側の鐘楼にある。総高1メートル65センチ、口径63センチで銘文によれば、寺が焼失したため慶安年中(1648～51年)に雪門老師によって再建されたという。その後延宝8年(1680年)雪門の法子禅眼の時にこの梵鐘が作られた。作者は佐野の三木喜左衛門、施主は鈴木重右衛門など23名が名を連ねている。</p> <p>昭和51年10月27日 町指定文化財に指定</p>				
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財(石川町教育委員会) 石川町史 第6巻				
関連項目	華蔵寺(4-004)				
備考					
写真及び位置図等					
					
全景			位置図		


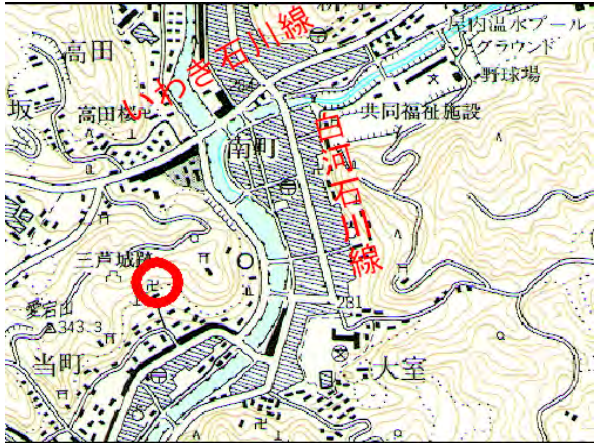
石川町資源調査調書

通し番号	62	整理番号	5	-	013	作成	平成19年2月
名称	ショウレンジ ドクシウ 乗蓮寺の銅鐘				項目	史跡	
管理	住所	石川町字下泉305					
	連絡先	文化振興係 TEL 0247-26-9137					
	管理者及び所有者	西館道範					
概要	<p>真言宗新義派の寺で京都智積院の末寺になっている。『石川町史下』(1968年)によれば、承和3年(836年)乗観上人によって開山されたと伝えられ、中世期には石川氏の祈願寺であったという。</p> <p>鐘は総高1メートル15センチ、口径60センチ。銘文によれば、元禄10年(1697年)にの鈴木庄右衛門信利が大施主となって造られた。作者は佐野の橋本八右衛門と刻まれているこの時の住職は中興14世、沙門祐源だった。</p> <p>梵鐘銘にある「慈栄尼」の鈴木家系図(『石川町史下』所収)によれば、施主の先代の鈴木庄右衛門重伽の母であり、「照臨尼」「貞心尼」「悉心尼」「自得尼」の四人は妻、「一泡尼」「了縁童子」の二人は子どもである。華蔵寺の銅鐘とともに貴重なものである。</p> <p>昭和51年10月27日 町指定文化財に指定</p>						
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財(石川町教育委員会) 石川町史 第6巻						
関連項目	乗蓮寺(3-009)						
備考							
写真及び位置図等							
							
全 景				位 置 図			


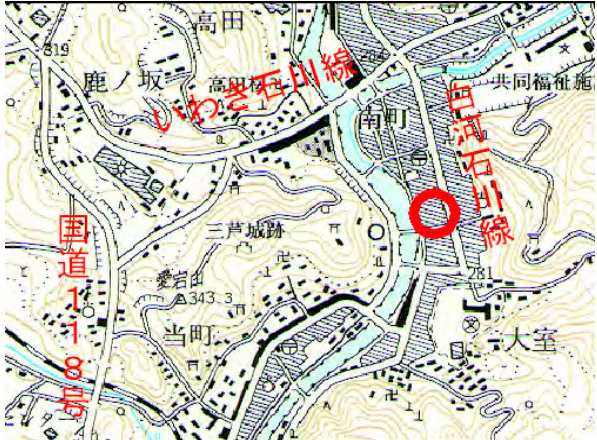
石川町資源調査調書

通し番号	63	整理番号	5 - 014	作成	平成19年2月
名称	福満虚空蔵堂			項目	史跡
管理	住所	石川町大字北山形字龍ノ口11-3			
	連絡先	文化振興係 TEL 0247-26-9137			
	管理者及び所有者	北山形区			
概要	<p>福満虚空蔵堂の創建については『石川町史下』（1968年）に次のような伝承がある。天正年間（1573～91年）に石川昭光の姉浄仙尼が草庵を結び、この山頂に虚空蔵菩薩を安置して権現の本地奥の院と称したという。また虚空蔵堂の南西側中腹にあった尾巻山龍口寺（薬王寺の末寺）と密接な関係があったと想像されるが、創建及び現在に至るまでの経緯は不明な点が多い。</p> <p>この仏堂は正面三間、側面三間の方形造りで正面に一間の向拝が付いており、堂全体の外観は簡素である。天井は内陣がさおぶち天井、外陣は格天井となりこの格天井の天井板に寄進者名が記されている。また彫刻は内陣境の三間の欄間と向拝正面の欄間に龍が彫られており見事である。</p> <p>虚空蔵堂は文政13年（1830年）の山火事によって消失した記録がある。現在の仏堂は、弘化4年（1847年）の「虚空蔵堂普請諸入金請払控帳」から見てこの頃に再建されたものと推測される。</p> <p>昭和28年10月1日 町指定文化財に指定</p>				
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財（石川町教育委員会） 石川町史 第6巻				
関連項目	龍口寺（4-017） 石川氏（8-001）				
備考					
写真及び位置図等					
					
全景			位置図		

石川町資源調査調書

通し番号	64	整理番号	5	-	015	作成	平成19年2月
名称	<small>ヤチ センジュカンノボサツリツゾウ</small> 谷地の千手観音菩薩立像				項目	史跡	
管理	住所	石川町大字谷地字竹之花					
	連絡先	文化振興係 TEL 0247-26-9137					
	管理者及び所有者	乗蓮寺・谷地区					
概要	<p>千手観音堂は廃寺となった正法寺の境内にあり、仙道33観音19番札所として栄えたといわれている。</p> <p>本尊の木造千手観音菩薩立像は全高104.3センチの11面42臂像である。この観音像はカツラ材を使用した寄木造、彫眼素地仕上げで、基本的な構造は頭部を前後に二材を矧ぎ、体軀は前後左右の合計四材を矧ぎ寄せている。このような規則的な寄木造の技法は、中央の正統的仏師の作であることをうかがわせる。作風にもそれがうかがえ、調和の取れた切れ味のある造形を示している。</p> <p>造立年代は鎌倉時代後半と考えられており、美術的にも優れた仏像である。また造像に際しては石川氏一族が関与していたものと考えられている。</p> <p>平成5年5月1日 町指定文化財に指定</p>						
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財（石川町教育委員会） 石川町史 第6巻						
関連項目	石川氏（8-001） 乗蓮寺（3-009）						
備考							
写真及び位置図等							
 <p style="text-align: center;">全景</p>				 <p style="text-align: center;">位置図</p>			

石川町資源調査調書

通し番号	65	整理番号	5	-	016	作成	平成19年2月
名称	ススキケシウツオヤオキ 鈴木家住宅主屋及び門				項目	史跡	
管理	住所	石川町字下泉163-1					
	連絡先	文化振興係 TEL 0247-26-9137					
	管理者及び所有者	石川町					
概要	<p>鈴木家は江戸時代に下泉村の庄屋を務め、さらに石川組の大庄屋でもあった(吉田光一家文書)。表門の建つ屋敷地は郷土であった鈴木家が居住し、庄屋の鈴木家は南隣にあったと伝えられている。また、明治前期には当主の鈴木重謙が石陽社の幹部であった吉田光一らとともに自由民権運動で活躍した。</p> <p>主屋は明治の初め頃近隣の古屋を移築したという口伝がある。建立当時の原型は、桁行八間に梁間(奥行)五間の平入りで、もと茅葺、寄棟造りであったと見られている。居住部分は座敷二室と居間、寢室を仕切った四間取となり、左入口の土間は間口三間に奥行五間ほどある。規模や間取りなどから見て、この地域の19世紀後半ぐらいに建立された村役層農民住居の形式に類似しており、本町では残り少ない農家住宅として貴重なものである。</p> <p>表門は街道に面した屋敷入口に東面して建っている。一間一戸、門扉付きの薬医門で、本柱の両袖にはそれぞれ半間の袖壁を付し、そのうち右側には潜戸を開いている。軒は二重の垂木半せがい造り、正面の中備えと側面の妻飾りは大型の板葦股と大斗、破風飾りには蕪懸魚を配する簡素ながら入念な造りである。建立時期は19世紀中頃と推定され、近隣町村にも例がなく貴重なものである。</p>						
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町の文化財(石川町教育委員会) 石川町史 第6巻						
関連項目	鈴木重謙(8-004) 吉田光一(8-005)						
備考							
写真及び位置図等							
							
全景				位置図			